

【評価指標】 児童アンケートと保護者アンケート，教職員の自己評価によるもの

児童アンケートと教職員の自己評価は「よくできた」「だいたいできた」「あまりできなかった」「できなかった」、保護者アンケートは「そう思う」「少し思う」「あまり思わない」「思わない」の4種類で回答・評価がされています。従って、評価指標は「よくできた」「あまりできなかった」及び「そう思う」「少し思う」を合計した割合が80～100%を到達目標としています。

※前期・後期の数値の単位は%です。また、変化は5%以上の増減を矢印で表しました。

アンケート・質問項目		前期	後期	変化	
児童アンケート					
1	「課題意識・自主」(90%)	95.8	95.6	→	
2	「考えを伝え、まとめる」(90%)	92.3	91.3	→	
3	「タブレット活用」(85%)	91.7	84.7	↘	
保護者アンケート					
4	「タブレット活用による家庭学習」(85%)	80.8	80.4	→	
教職員の自己評価					
学特3	「課題化・導入の工夫」	100	100	→	
学特6	「家庭学習の工夫」	33.3	71.5	↗	
よく考える子	<p>【職員による今年度の成果(○)や改善案(◆)】</p> <p>○全員が校内研究を行い、指導案作りや授業の工夫を行ったことが、成果となっていると考えられる。研究を通して、単元を貫く課題を意識しながら授業をすることができた。グループ交流では、「仲間を大切に学ぶ合い」をもとに、言語活動を行うことができた。双方向のより深い交流ができた。</p> <p>○指標を位置付けることによって、より評価の観点が明確になった。教師も児童も、同じ目標に向かって学習を進めることができた。指標を指導案の中に位置付けてあったので、児童も文章の構成(まとめ方)の参考にすることができた。指標によって、何を書いたらよいか明らかにすることができた。</p> <p>○タブレットを教師が使いこなす段階から、児童が使いこなす段階になってきた。グループ交流でスライドやジャムボードを利用して、全員がタブレットを見ながら話し合う活動などができた。低学年も、マイク入力することで、スライドで発表することができるようになった。調べ学習をしたことをスライドにまとめることができた。インターネットから引用するときの約束も、しっかり指導しながら進めることができた。</p> <p>◆単元全体の流れについてはつかめているが、単位時間のまとめ方を、さらに工夫する必要がある。本時の小さな指標を示していく。</p> <p>◆家庭学習でのタブレットの活用を工夫していくことが大切だが、ノートに書く学習が合っている子もいるので、すべてをタブレットに切り替えるのは難しい。</p>				
	児童アンケート				
	4	「よさ見つけ」(90%)	89.6	91.2	→
	5	「あいさつ」(90%)	94.7	97.9	→
	6	「思いやり」(90%)	87.5	89.2	→
	7	「一人一役・係・当番活動」(85%)	97.9	97.7	→
	保護者アンケート				
	5	「あいさつ」(90%)	100	91.5	↘
	7	「自己有用感」(85%)	95.8	93.6	→
	8	「いじめ」(90%)	97.9	97.9	→
教職員の自己評価					
学特7	「あいさつ・よさ見つけ」	77.8	100	↗	
学特9	「リーダー指導」	77.8	85.7	↗	
生健2	「いじめ」(90%)	100	100	→	

	<p>【職員による今年度の成果（○）や改善案（◆）】</p> <p>○企画委員会による「思いやりの花」の活動（自分が仲間に行ったよい行動等を書く活動）を通して、自己有用感が得ることができたり、仲間のよさを「あやの花」に書いて伝え合う意識が高まったりしたことが、成果につながったと考えられる。</p> <p>○6年生による「ハイタッチあいさつ」の活動を通して、全校があいさつを交わし合うことを意識できるようになった。</p> <p>○上記2点が向上したことや、定期的な「あのねアンケート」や教育相談により、「いじめ」への不安が生じなかったと捉えることができる。</p>				
進んできた子	児童アンケート				
	9	「運動・掃除・奉仕活動」（90%）	100	93.5	↘
	10	「悩み相談」（100%）	85.4	82.6	→
	11	「規則正しい生活」（85%）	87.5	80.4	↘
	保護者アンケート				
	10	「運動・掃除」（90%）	93.7	93.6	→
	11	「規則正しい生活」（85%）	79.1	68.1	↘
	教職員の自己評価				
	生健3	「運動・掃除」（90%）	100	100	→
		<p>【職員による今年度の成果（○）や改善案（◆）】</p> <p>○後期の児童アンケートにおいて「運動・掃除・奉仕活動」の項目に減少が見られた。しかし、「掃除」では、6年生が毎回「掃除 MVP」として下学年を認める活動を継続している中では、向上しているとの認識をもっている。「運動」についても、外で異学年が交流して楽しむ姿がよく見られる。</p> <p>◆「悩み相談」では、「できなかった」子の割合は減少しているため、わずかながら向上しつつあると読み取れる。しかし、この項目は、重要視すべきことなので、今後も、「あのねアンケート」のみならず、児童のわずかな変化等に注視し続けていきたい。</p> <p>◆「規則正しい生活」では、減少が見られるので、「健康観察プラス」等で家庭への働きかけを強化する必要がある。</p>			
地域に関われ信頼される学校	児童アンケート				
	11	「地域行事への参加」（80%）	90.6	91.3	→
	12	「ふるさとへの愛着」（80%）	97.9	97.9	→
	保護者アンケート				
	13	「情報発信」（90%）	89.6	78.7	→
	14	「あいさつ・地域行事への参加」（80%）	91.6	85.1	↘
	教職員の自己評価				
1	「情報発信」	88.9	85.7	→	
	<p>【職員による今年度の成果（○）や改善案（◆）】</p> <p>○前回より向上した。今後ともグループウェアなどのICTを効果的に活用し、業務改善を推進する。</p> <p>◆HPや「スマート連絡帳」などを活用した保護者・地域への情報発信を行う。</p>				
働き方改革と業務改善	教職員の自己評価				
	2	「よさ見つけ」（100%）	100	100	→
	3	「主体性・協働性」（100%）	77.8	100	↗
		<p>【職員による今年度の成果（○）や改善案（◆）】</p> <p>○Te-comp@ssのお知らせを活用して、迅速な対応ができるようになってきた。職員も、お知らせ機能を使いこなすことができるようになった。職員間のクラスルームやドライブも活用できることが分かった。職員室のパソコンでもドライブを開くことができるので、大変便利に仕事をすることができた。海津市でつながっていることも便利だと思う。</p> <p>○生徒指導部からの働きかけで、教師も進んであやの花を書いたり声をかけたりする教師の意識が高まったと思う。他学年との交流があったときに、児童にも積極的にあやの花を活用するように働きかけた。しかりつけるのではなく、子どもの話に耳を傾ける体制がよいと思う。担任の枠を離れ、いろいろな教師が子どもに話しかけ、話題を共有できるところもよいと思う。</p>			